

教員養成課程における教科専門科目として考えたときに

技術教育・福山隆雄

1. はじめに

本授業は，1 回生向けに開講される教科専門科目である。初年次科目とともに，大学での学び，技術教育での学習，そして将来の進路を動機づける出発点にあたる科目のひとつであるといっても過言ではないだろう。それだけに，教科専門の知識を教授するだけに終始するのではなく，技術教育への関心を引き出すことも念頭に入れなければならない。

2. 本授業の目的

本授業は，中学校教員免許状（技術）の取得に必修である。中学校技術分野の指導で特に中心となる，木材と加工のための工具，木質材料の特性およびその加工法について学び，実践時に必要となる観察力や基礎能力を身につけることを目的とする。

3. アンケートの調査内容

調査項目を以下に述べる。

I. 授業の内容に関する質問

[a 目的・目標の理解] この授業の目的・目標をよく理解できた。

[b 進度・時間配分] 授業の進度および毎回の授業における時間配分は適切であった。

[c シラバス] 授業はシラバスに則して行われた。

II. 担当授業者の授業方法に関する質問

[a わかりやすさ] 教員の説明の仕方は分かりやすかった。

[b コミュニケーション] 発言や質問の機会が適切に与えられ，教員はそれにきちんと対応していた。

[c 教員の意欲・熱意] 教員の授業に対する意

欲・熱意を感じた。

[d 視聴覚教材] 黒板，メディア（パソコン，ビデオ，CDなど）の使い方は効果的であった。

[e 教科書・プリント] 教科書，プリントの使い方は効果的であった。

III. 学生自身に関する質問

[a シラバス] この授業の受講に際し，シラバスを読んだ。

[b 学習態度] 質問をするなどして，授業に積極的に取り組んだ。

IV. 授業全体に関する質問

[a 改善度] 教員は学生の意見を取り入れるなどして，授業を改善するように努力していた。

[b 目的・目標達成度] この授業の目的・目標は達成された。

[c 満足度] この授業は全体として満足のいくものだった。

[d 関心・興味] この授業で取り上げられた事柄について，関心・興味がわいた。

V. その他の質問

[a レベル] 授業のレベルは適切でしたか。

①難しすぎた，②やや難しかった，③丁度よかった，④やや簡単だった，⑤簡単すぎた

[b 出席状況] この授業への出席状況はどのくらいでしたか。

①全部出席，②1-2 回欠席，③3-4 回欠席，④5 回以上欠席

[c 授業時間外学習] この授業に関連して授業時間外の学習は，1 回の授業ごとにどれくらいしましたか。

①2 時間以上，②1 時間～2 時間，③30 分～1 時間，④30 分未満

4. アンケートの調査結果

3で述べた各調査項目についての結果を以下に示す。ここで調査数は6名、I～IVについては10点を満点として評価の規格化を行い(点数が高いほど肯定的な回答をした割合が高い)、Vについてはそれぞれ、Va：点数が高いほど丁度よいと回答した割合が高い、Vb：点数が高いほど出席率が高い、Vc：点数が高いほど授業時間外学習の時間が長い、となっている。

表：アンケート結果（評価＝X/10）

項目	評価
I a	7.78
I b	6.67
I c	6.67
II a	8.33
II b	7.22
II c	7.78
II d	6.11
II e	8.33
III a	6.67
III b	6.11
IV a	6.67
IV b	7.22
IV c	8.33
IV d	7.78
V a	9.17
V b	7.78
V c	0.56

(回答数：6，回答時期：期末試験後)

5. アンケートの調査結果をふまえて

各調査項目である、授業の内容、担当授業者の授業方法、学生自身、授業全体に関して、概ね肯定的な回答を得た。これは、少人数で実習を取り入れた授業の性質から、肯定的な回答が得られやすかったと考えている。また授業の難易度については、多くの学生が“丁度よい”と回答している。

しかし期末試験においては、授業で教えた内容

については正しく回答するものの、その応用に関する問いについては、てきめん正答率が悪くなるという状況がみられた。また、授業時間外学習の時間が極端に短いという回答が得られた。

以上の結果より、応用力(加工の実践力を含む)を高めるために、宿題や時間外演習を課すことが必要であると考えられる。

6. まとめ

教員養成課程における教科専門の授業の目的は特殊である。理学部や法文学部などの一般学部とは異なる教育養成課程独自の目的に沿った、現場で教科を教える実力を養成するための教育が求められている。理学部における真理の探究、工学部における研究道具としての数理教育に対して、教員養成課程の独自性として、実験の方法論や研究課題の学問的・社会的位置付けということに鋭敏な感性、身近な現象を科学的に考える感性を育てる教育が求められている。ここで、単純に学問の専門性について妥協した授業に向かうべきではない。そのような事態になれば、学生は小手先の対処法だけを学ぶことになり現場で起こりうる幅広く困難な問題に対処する力が養われず、また、教員養成課程を卒業して研究者を目差そうという意志をもった学生の芽を摘むことにもなりかねない。学校教員養成という性格の課程に所属する学生の性質を考慮しつつ、科学的真髄を盛り込んだ授業が求められていると考えている。これは、極めて難しいことである。

冒頭でも述べたように、本授業は1回生向けに開講される教科専門科目であるために、技術教育での学習や将来の進路を動機づける出発点にあたる科目のひとつであると言えよう。今回の授業に限っては、授業内容、授業方法など授業全体に関して概ね肯定的な回答を得た。しかし、授業で教えた内容を応用する力に乏しいこと、時間外学習が極端に短いことは、教員養成課程向けの専門科目ということを考えたときに、特に問題視されることである。これらの改善点を踏まえて、次年度の授業に臨みたい。